

サーチライト With Pastor Jon 創世記6章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

今夜は創世記6章。

さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、(創世記6:1)

神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。(6:2)

そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう」と仰せられた。(6:3)

神の子らが、人の娘たちのところに入り、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。(6:4)

主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。(6:5)

それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。(6:6)

そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やほうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」(6:7)

しかし、ノアは、主の心にかなっていた。(6:8)

これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。(6:9)

ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。(6:10)

地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。(6:11)

神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱

していたからである。(6:12)

そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。」(6:13)

ノアが生きた時代は大洪水が起こる前の時代の終わりで、ノアは終末時代、終わりの時代の信者でした。ちょうど、私たちのように。私たちが終わりの時代の信者です。

私たちが終末時代を生きていて、と言っても、洪水が地を滅ぼす前のことではありません。聖書によると、今度は火が地を完全に破壊します。

ノアが生きていたのは大洪水の前の終末時代で、私たちが生きているのは、主の日に、火よって地が焼き尽くされる前の終末時代です。

ペテロが言ったことを聞いて下さい。私が読みましょう。

ノアの時代と比較して、私たちが生きている終わりの時代について語っています。

まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、次のように言うでしょう。

「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。父祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」(Ⅱペテロ 3:3 - 4)

終わりの日、今(*1997年)がその時代だと私は思いますが、嘲る者どもがやって来て言うのです。

「あんたたちはいつも、再臨とか裁きについてずっと話しているけれど、その再臨の約束とやらはどうなってるんだ？ はっきり言って、全てのものはずっとこのままさ！」

こう言って私たちが嘲笑し、バカにするでしょう。

ペテロは続いて大洪水について語りました。

こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。(Ⅱペテロ 3:5 - 6)

「今日、すなわち我々が生きている終わりの時代に、人々は何も知らずに嘲り、バカにして笑う。ちょうどあの時、ノアがその後に起こることを告げた時と同じように。」

彼らは嘲笑しバカにして、「くだらない!」「洪水!?!」「天から雨が降って来る!?!」

ちなみにそれ以前には、雨は全く降ったことがなかったのです。

地球には“雨”はなかった。だから、空から雨が降るなんて、人が天に挙げられる“携挙”と同じくらい狂った考えだと思っていました。

それは全く理解できないこと、不可能で、あり得ないことだったので。

そしてペテロが言うには、「水で世界が滅びた時に、ノアが言ったことを信じないで、嘲り笑い、バカにしたのと同じように、まさに終わりの時代にも人々は信じない。あなたが伝えるメッセージも私たちが言うことも。」

しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どもものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。しかし、愛する人たち、あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。(Ⅱペテロ 3:7 - 8)

このように、「約束はどこにあるのか」とか「昔から何も変わっていない」等々言う人たちは、神の時間の法則は全く異なるものだ、ということを理解していないのです。

主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。(Ⅱペテロ 3:9)

主は、「見よ、わたしはすぐに来る」と約 2000 年前に宣言しました。

人々は「そんなの、大昔だ。」と言います。ですが、いいですか？

主の中では一日は千年のようだから、実際にはたった二日の話です。大したことではありません。

「あなたや私のためにまた戻って来ると言った約束を、主が遅らせているのではないということを理解しなさい」とペテロは言っています。

かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。

(Ⅱペテロ 3:9 - 11)

良い質問です。

ノアの時代に人々が嘲笑しバカにして、「雨が天から降るなんてあり得ない！」「洪水なんか考えられない！」と言ったように、私たちが生きているこの時代にも同じことをする人たちがいて、「空中に挙げられるなんてあり得ない！」「火が世界を焼き尽くすなんてあるワケがない！」と言います。

しかしペテロは「それは起こる」と言っていて、彼だけではなく、ノアと同じような時代に生きていた私たちの救い主イエス・キリストも、マタイ 24 章で（オリーブ山上で語られたので“オリーブ山の説教”と言われています）、終わりの時について語りました。

「最後の世代は、いちじくの木が成熟しているのを見る。」

聖書全体を通して、“いちじくの木”はイスラエルの象徴です。

イエスは、「いちじくの木が芽吹くのを見る世代は、イスラエル国家が再建され、発展し、滅びることがないということを見届ける世代だ。」と言ったのです。

私は、イエスが語ったのは私たちの世代のことだと強く思っています。

なぜなら 1948 年 5 月、イスラエルが再び現れ、開花したからです。

約 2000 年もの間、母国を失い国民意識を失くしていたのが、1948 年、突如として再建されたのです。

このことは、今（*1997 年）聖書預言でどの位置にいるのかを知る大切な鍵となります。

私は、自分たちはいちじくが成熟するのを見る世代、教会の携挙を見る世代だと信じています。本当に、強くそう思っています。

イエスはいちじくの成熟について話した後、興味深いことを語りました。

ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも知りません。ただ父だけが知っておられます。(マタイ 24:36)

「いちじくの木を見て、その時、季節を知りなさい。しかし、携挙が起こる具体的な日や時間はだれも知りません。」

人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついでりしていました。そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。(マタイ 24:37 - 39)

理解できましたか？

イエスが言ったのは、「いいですか。人の子が来るのもノアの時と同じようなのですよ。」

イエスは、後にペテロがⅡペテロ 3章で言うことと関連付けています。

先程読みましたね。つまり、ノアの時代の裁きと、この世が遂に崩壊する終わりの日とを重ね合わせているのです。

あの時は嘲笑う人たちが出現しましたが、彼らは必ず濡れのビチョビチョ、洪水で流されることが証明されました。

同じように私たちの時代にも嘲笑する者たちが出て、ノアの時代にしたように、「ああ、もう携挙の話はやめてくれ！ おまえらはいつもそんなことを言う。」と嘲り、バカにします。ただし今回は、彼らは必ず濡れではなく、書いてある通りに火で焼き尽くされるのですが。

ここでイエスは「ちょうど、ノアの日のように」と言いました。一緒に見ていきましょう。

ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついでりしていました。(マタイ 24:38)

言い換えれば、ダウ平均株価は高騰し、経済は活気づいており、人々は何の不満もなく暮らしていて、「そんな大異変とか、氾濫とか、大洪水とか、クダラナイ！」とあざ笑っていました。「We just don't ノア (know) about it! 信じられないな！」

ちょっとノアのジョークを盛り込んだりなんかして・・・

「そんなこと、信じない。」「勘弁しろよ。」「世の中、上手く回ってるじゃないか。」

今のこの時代、人々が何と言っているか知っていますか？

「ジョン、あんたたちが携挙とか再臨とか、反キリストが世界を支配するとか、世界統一政府とか、あれやこれや話しているのを聞いたが、USA Today 誌や CNN を見ている、世の中は上手く回っているように見えるじゃないか。」

「経済は回っているし、失業率も下がって来ていて、インフレもない。みんな、国に対してかなり満足している。誰もが食べたり、飲んだり、ディナーを外食したり、子供たちが結婚するのを見届けたりなどなど、世の中、すごく上手いこと回っているように見えるじゃないか。」

イエスは言っています。「これらは人々がノアの時代に言っていたことだ。ちょうど、ノアの日のように、人々は食べたり飲んだりし、子供が結婚して家庭を築くのを見たりしていて、何か大変なこと

が起こるとは全く考えてもいなかったのだ。」

ペテロも言っています。「ノアの日のように、人々は嘲り、バカにして『ばかばかしい！ 洪水なんか来ないって！』と言っていた。」

イエスとペテロが私たちに語っています。「再臨の時もそうなる。」

私たちは終わりの時代に生きているのです。

今夜、皆さんに注目して欲しいのはここです。

世がそこそこ上手く回っている時、水面下には本当の問題が潜んでおり、社会には大変な病がはびこっているのです。

これらのことが創世記6章に書かれていて、イエスが「ノアの日ようだ」と言ったように、人々は、表面上は「何も問題はない」と言い、食べたり飲んだり、ディナーに出かけたり、結婚を祝ったりしています。

しかし、イエスは言いました。「終わりの日もノアの日と同じようになる。」

ノアの日がどうであったかを見ると、全然素晴らしくは見えない大変なことがはっきりと分かります。そこには切実な問題がありました。よく見て下さい。

特記すべき4つのこと。聖書を学ぶ者にとって、注目すべき4つのこと。

聖書預言に興味を持っている人たちが、まことに注目すべき4つのこと。

終わりの日には4つのことが起こります。

それはノアの日にも起こったことで、創世記6章に記されています。

第1、さて、人が地上にふえ始め（創世記6:1）

ノアの日に起きた第1のこと、そして最後の日、人の子イエスが再臨する前にも起こるのは、人口の爆発的増加。

事実、ノアの時代、非常に、過剰なほどに人口が増えていました。

創世記5章、過去数回にわたって学んできて、アダムの家系図を見て気づいたと思いますが、アダムからノアまで人々はみな長生きでした。

アダムはメトシェラと同じ時代を生きていて、メトシェラはノアと同じ時代の人。

つまり、アダムからメトシェラ、メトシェラからノアまでは、それまでの全人類史そのものなのです。

聖書を学んでいる皆さんは、実際、5章と後に10章で家系図を見た時に、ノアがアブラハムと同じ時代を生きていたということが分かるでしょう。

要するに、この時代の人間は大変な長生きで、統計的にも人口の爆発的な増加が証明されます。

彼らは900年以上も生きたのです。

それで、一人の人に4人の子供が与えられ、その子たちの子供を見るまで生きたとしたら、5世代のうちその小さな社会、小さな家族、小さい一族の人口は96人。

それが10世代になると一族は3070人に増え、20世代には312万人にまで跳ね上がります。30世代では32億2千万人。

ただ一人の人が子供の子供を見るまで生きた場合ですよ。

ここで、創世記5章に記された一世代が40年だとしたら、便宜上そうだとしたら、最低でも40世代は存在していることとなります。創世記5章で、です。

しかし実際は、彼らはものすごく長寿だったので、人口は統計的に日々何十億という数になり、恐らく世界はもっと混み合っていたでしょう。

はるかに密集していた可能性大です。莫大な数の人口。

1節に書かれている「人が増え始め」というのは、人間が地上に、極めて爆発的に増加したということなのです。

つづく

彼らはあなたがたにこう言いました。

「終わりの時には、嘲る者たちが現れて、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう。」

この人たちは、分裂を引き起こす、生まれつきのままの人間で、御霊を持っていません。

しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。

神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

(ユダ 18 - 21 新改訳

2017)